



安全データシート(SDS)

整理番号:汎用 ABS: 330

発行: 2008年 11月 1日

改訂: 2016年 1月 1日

1. 化学品及び会社情報

製品名	: TECHNO ABS
グレード	: 330、JSR 38
会社名	: テクノポリマー株式会社
住 所	: 〒510-0871 三重県四日市市川尻町100
担当部門	: 製品技術部
担当グループ	: 技術企画グループ
電話番号	: 059-348-3115
FAX 番号	: 059-348-3132
推奨用途及び使用上の制限	: 一般工業用途

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性 : 分類できない

健康に対する有害性

急性毒性 経口 : 区分外

急性毒性 経皮 : 分類できない

急性毒性 吸入(ガス) : 分類できない

急性毒性 吸入(蒸気) : 分類できない

急性毒性 吸入(粉塵・ミスト) : 分類できない

皮膚腐食性/刺激性 : 分類できない

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 分類できない

呼吸器感作性 : 分類できない

皮膚感作性 : 分類できない

生殖細胞変異原性 : 分類できない

発がん性 : 分類できない

生殖毒性 : 分類できない

特定標的臓器毒性(単回暴露) : 分類できない

特定標的臓器毒性(反復暴露) : 分類できない

吸引性呼吸器有害性 : 分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性) : 分類できない

水生環境有害性(長期間) : 区分 3

オゾン層への有害性 : 分類できない

「分類できない」はGHS分類において「データ不足等により分類判定ができない」のことである。

GHS ラベル要素

絵表示: 該当なし

注意喚起語 : 該当なし

危険有害性情報 : H412:長期継続的影響によって水生生物に有害。



注意書き :
 [安全対策] : 環境への放出を避けること。
 [廃棄] : 内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者へ依頼して廃棄すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性
 物理的及び化学的危険性 : 粉塵を発生させると粉塵爆発の可能性を有する。

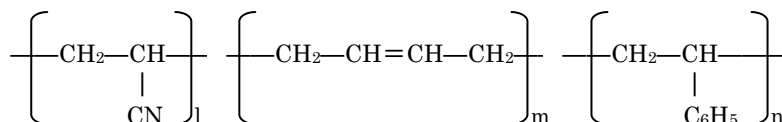
3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

濃度又は濃度範囲:

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲 (wt%)	CAS 番号	官報公示整理番号
(A) アクリロニトリル・ブタジエン・スチレン共重合体 (ABS樹脂)	100 質量%	9003-56-9	6-176

化学式又は構造式 :
 (A)



GHS 分類に寄与する不純物及び安定化添加物:

- ・ 耐候剤としてビス(2,2,6,6-テトラメチルピペリジン-4-イル) = デカンジオアート (CAS 52829-07-9) を含む場合がある。
- ・ 安衛法通知対象物質に該当する着色剤を含む場合がある。15. 適用法令参照。

ISO 材料表示 : >ABS<

4. 応急措置

ばく露経路による応急措置

吸入した場合 : 高温の熔融樹脂から発生するガス、フェームを多量に吸入した場合は、新鮮な空気のある場所に移る。咳、呼吸困難やその他の症状が出たときは、医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合 : 熔融樹脂が皮膚に接触したり、又は付着した場合は、直ちに水で冷やし医師の手当てを受ける。
 ガス・フェームの凝縮物が付着した場合は、石鹼と水でよく洗う。
 皮膚に異常を感じた場合は、医師の手当てを受ける。
 ペレットや粉末の取扱いで皮膚を刺激することはないが、取り扱い後は水でよく洗い流す。ただし、皮膚に湿疹等の異常を感じた場合は、医師の手当てを受ける。



目に入った場合	: ガス・凝縮物・粉塵・ペレットが目に入った場合は、こすったりせずに清浄な水で十分に眼を洗浄する。コンタクトレンズは、すぐ取り外す。眼に異常を感じた場合は、直ちに医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	: 急性毒性はないが、できるだけ吐き出し、異常を感じるようであれば医師の手当てを受ける。
最も重要な兆候及び症状	: 情報なし
応急措置をする者の保護	: 救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項	: 情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 注水、水噴射、泡消火剤、粉末消火剤等が使用できるが、水は冷却効果が大きいので、水を使用することが望ましい。
使ってはならない消火剤	: 炭酸ガスとドライ・ケミカルは冷却能力が少なく、再発火の恐れがあるので注意が必要である。
火災時の特有の危険有害性	この樹脂は火災時、強い熱、濃い黒煙、二酸化炭素・一酸化炭素 : および窒素酸化物等を含むガスを発生する。
特有の消火方法	: 初期消火には水、粉末消火剤を用いる。 消火作業は風上から行う。 移動可能な可燃物等は速やかに安全な場所に移す。 移動出来ない可燃物等は水にて冷却する。 火災発生場所の周辺には関係者以外の立ち入りを禁止する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しない様に適切な処置をする。
消火を行う者の保護	: 消火作業をするときは、適切な保護具(防火服、呼吸器具等)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項・保護具及び緊急時措置:	ペレットや粉末を道路や床にこぼした場合、スリップ・転倒の原因となるので、適切な保護具を着用し、掃き集めて処分する。
環境に対する注意事項	: 排水系へ流出すると環境汚染の原因となる可能性があるため、漏出したものは速やかに全量回収し処分する。(文献-1「樹脂ペレット漏出防止マニュアル」を参照)
封じ込め及び浄化の方法及び機材	: 飛散流出したものは掃き集めて密封できる空容器に回収する。
二次災害の防止策	: 付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。



7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- : 溶融樹脂をパージ等で排出する場合は、溶融樹脂の飛散による火傷等を防止するため、適切な保護設備を設けると共に保護具を着用する。
二次加工（切断、サンディングなど）や粉碎等で発生する粉塵は、眼・皮膚・呼吸器を刺激することがあるので適切な保護具を着用する。

局所廃棄・全体換気

- : ガス・フューム・粉塵が発生する場所には、局所排気設備を設ける。
作業者が大量に吸入した場合、個人によっては吐き気、頭痛などを起こすことがあるので吸入しないようにする。

注意事項

- : 溶融樹脂を高温で空気中に放置しておく、分解・発火の危険性があるので、溶融樹脂は小さく平らな形状にし速やかに水で冷却する。
樹脂をバレル中に高温で長時間滞留させると、熱分解によるガス発生危険性があるので十分に注意する。

安全取扱い注意事項

- : 粉塵は、静電気や電気スパークなどで粉塵爆発を起こすことがあるので堆積しないよう清掃に心掛ける。
空気移送・バグフィルター・ホッパー等の設備には、粉塵爆発を防止するため、接地等の静電気災害防止対策を確実にを行う。

保管

適切な保管条件

- : 直射日光、水濡れ、湿気を避けて保管する。
火災を防止するため、熱源および発火源から離れた場所で保管する。
保管中は、過度の段積みをして荷崩れを防止する。
一つの場所に樹脂を 3,000Kg 以上貯蔵又は取り扱う時は消防法で定める「指定可燃物（合成樹脂類）」に該当するので、市町村長が定める「火災予防条例」に従う。

安全な容器包装材料

- : 保管条件を満足できる容器包装材料であること。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度（作業環境評価基準）

トルエン	20ppm
スチレン	20ppm

許容濃度

		吸入性粉じん	総粉じん
第3種粉塵 （その他の無機及び有機粉じん）	日本産業衛生学会勧告値	2mg/m ³	8mg/m ³



			Respirable fraction	Total dust	
Particulates Regulated	Not	Otherwise	OSHA PEL	5mg/m ³	15mg/m ³
			Cal/OSHA PEL 8-hour TWA (as of 4/26/13)	5mg/m ³	10mg/m ³

暴露防止

設備対策

: 高温加工時に空气中に開放される部分でガスが発生するので、安全な作業環境を得るため局所排気等を設けるのが望ましい。

保護具

呼吸器の保護具

: 樹脂製品の機械加工、サンディングなどの粉塵の発生する作業の時には粉塵マスクを着用する。
発生ガス、フェームの濃度が高い場所で作業する場合は、有機ガス用マスクを着用する。

目の保護具

: 樹脂製品の機械加工、サンディングなど粉塵の発生する作業の時には、樹脂製の保護眼鏡を着用する。

手の保護具

: ペレットやパウダーを扱うときは特に必要ないが、熔融樹脂を取り扱う時は断熱性のよい手袋を使用する。

皮膚及び身体の保護具

: 通常の作業着でよいが、熔融樹脂を取り扱う場合は長袖の作業着を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 形状はペレット状の固体
臭い	: なし(常温)
臭いの閾値	: 知見なし
pH	: 知見なし
融点	: 明確な融点はなく、広い温度範囲(110~150°C)で次第に軟らかくなる。
沸点	: なし
引火点	: 知見なし
発火点	: 405°C以上(ASTM-D 1929-77)
爆発限界(上限)	: 知見なし
(下限)	: 60g/m ³ (粉末粒径 200 μ)
可燃性	: あり
発火性	: 自然発火性 ; なし 水との反応性 ; なし
酸化性	: 一般的な貯蔵、取扱いにおいては無い。
蒸気圧	: なし
蒸気密度	: 知見なし
揮発性	: なし
比重	: 1.02~1.12g/cm ³
n-オクタノール/水分配係数	: 知見なし
溶解度	: 水に不溶 メチルエチルケトン、トルエン、テトラヒドロフラン等に部分的に可溶
粉塵爆発性	: あり

10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	: 一般的な貯蔵、取扱いにおいては安定で、反応性はない。
危険有害反応可能性	: 常温において自己反応性はないが、高温(250~400℃)になると樹脂が分解し、分解ガスが生成するので、溶融樹脂は速やかに水で冷却すること。
避けるべき条件	: 直射日光、火気、熱源等高温での長時間暴露
混触危険物質	: なし
危険有害な分解生成物	: 燃焼時には黒煙、二酸化炭素・一酸化炭素・窒素酸化物等を含むガスを発生する。

11. 有害性情報

製品のデータ

急性毒性 経口	: LD50(ラット) > 5000mg/kg (推定値)
急性毒性 経皮	: データなし
急性毒性 吸入(ガス)	: データなし
急性毒性 吸入(蒸気)	: データなし
急性毒性 吸入(粉塵・ミスト)	: データなし
皮膚腐食性/刺激性	: 樹脂の乾燥時及び溶融樹脂から発生するガス・フュームは皮膚を刺激する。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 樹脂の乾燥時及び溶融樹脂から発生するガス・フュームは眼を刺激する。
呼吸器感受性	: データなし
皮膚感受性	: データなし
生殖細胞変異原性	: データなし
発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器毒性(単回暴露)	: データなし
特定標的臓器毒性(反復暴露)	: データなし
吸引性呼吸器有害性	: データなし

成分のデータ(混合物の GHS 分類で分類した項目のみ抜粋): なし

12. 環境影響情報

製品のデータ

生態毒性	
水生環境有害性(急性)	: データなし
水生環境有害性(長期間)	: データなし
残留性・分解性	: なし
生体蓄積性	: データなし
土壌中の移動性	: データなし
オゾン層有害性	: データなし



その他 : 海洋生物、鳥類が摂取することを防止するため、いかなる海洋や水域でも投棄、放出してはならない。

成分のデータ(混合物の GHS 分類で分類した項目のみ抜粋):

①ビス (2,2,6,6-テトラメチル-4-ピペリジル) セバケート

水生環境有害性 (長期間)

慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく (OECD テストガイドライン 301B による 28 日後分解度 : 10-24% (SIAP (Conclusions Agreed in SIAM 26, 2008))), 藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) での 72 時間 NOEC=0.050 mg/L である (環境庁生態影響試験, 1999) ことから、区分 1 となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく (OECD テストガイドライン 301B による 28 日後分解度 : 10-24% (SIAP (Conclusions Agreed in SIAM 26, 2008))), 魚類 (ブルーギル、ニジマス) の 96 時間 LC50 = 4.3 mg/L (SIAP (Conclusions Agreed in SIAM 26, 2008)) であることから、区分 2 となる。以上の結果を比較し、区分 1 とした。

13. 廃棄上の注意

埋め立てる時は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従い、産業廃棄物処理業者、若しくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、その団体に委託して処理する。

焼却する時には、焼却設備を用いて、大気汚染防止法等の諸法令に適合した処理を施して焼却する。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号 : 該当しない
品名 : 該当しない
国連分類 : 該当しない
容器等級 : 該当しない
海洋汚染物質 : 該当しない

輸送の特定の安全対策

: 梱包装が破れないように、水漏れや乱暴な取扱いをさける。もし、破袋してペレットやパウダーが飛散した場合は、滑って転倒しないように注意する。

輸送前には包装袋の破損、漏れ等のないことを確かめる。
転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。流出した物は速やかに、全量回収する。

15. 適用法令

消防法 : 指定可燃物(合成樹脂(3,000kg 以上の貯蔵)は、消防法第 9 条 3 の指定可燃物である。)

化学物質排出把握管理促進法 (化管法) : 着色品は着色剤として化管法対象物質である下記の物質をカットオフ値以上含有する場合がある。
特定第1種指定化学物質 第 309 号「ニッケル化合物」、
第1種指定化学物質 第 31 号「アンチモン及びその化合物」、第 87



号「クロム及び三価クロム化合物」、第 132 号「コバルト及びその化合物」

毒物及び劇物取締法 : 非該当

労働安全衛生法

- ・通知対象物質であるスチレンを 0.1 質量%以上含有する製品に該当する。
- ・着色品でカラーNo.末尾に「ZC」表示がある場合は、着色剤として通知対象物質「コバルト及びその無機化合物」を 0.1 質量%以上含有する製品に該当する。
- ・着色品は着色剤として通知対象物である以下の物質をカットオフ値以上含有する場合がある。
「アンチモン及びその化合物」「カーボンブラック」「クロム及びその化合物」「鉱油」「コバルト及びその化合物」「酸化亜鉛」「酸化アルミニウム」「酸化チタン」「酸化鉄」「シリカ」「ステアリン酸亜鉛」「ステアリン酸マグネシウム」「石油ナフサ」「銅及びその化合物」「ニッケル化合物」「ミネラルスピリット」

参考データ：着色剤の GHS 分類（健康・環境に対する有害性）
着色剤の有害性情報は製品評価技術基盤機構のホームページをご参照ください。

	三酸化二アンチモン	カーボンブラック	酸化クロム (Ⅲ)	鉱油
急性毒性 経口	区分5	区分外	分類できない	分類できない
急性毒性 経皮	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
急性毒性 吸入(ガス)	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類できない
急性毒性 吸入(蒸気)	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
急性毒性 吸入(粉塵・ミスト)	分類できない	分類できない	分類できない	区分 4
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	分類できない	区分外	分類できない	区分 3
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分外	区分外	分類できない	区分 2B
呼吸器感作性	分類できない	分類できない	区分 1	分類できない
皮膚感作性	分類できない	分類できない	区分 1	分類できない
生殖細胞変異原性	区分外	分類できない	分類できない	区分 2
発がん性	区分 1B	区分 2	区分外	区分外(高度精製油)、区分 1A(未精製油または軽度処理油)
生殖毒性	区分外	分類できない	分類できない	分類できない
特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分 2(呼吸器)	分類できない	分類できない	区分 2(肺)
特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分 1(呼吸器)	区分 1(肺)	分類できない	区分 1(肺、皮膚)
吸引性呼吸器有害性	分類できない	分類できない	分類できない	区分 1
水生環境急性有害性	区分 3	区分外	区分 1	分類できない
水生環境慢性有害性	区分 3	分類できない	区分 1	分類できない

	酸化コバルト (Ⅱ)	酸化亜鉛	酸化アルミニウム	酸化チタン (Ⅳ)
急性毒性 経口	区分 3	区分外	区分外	区分外
急性毒性 経皮	分類できない	分類できない	分類できない	区分外



急性毒性 吸入(ガス)	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
急性毒性 吸入(蒸気)	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
急性毒性 吸入(粉塵・ミスト)	分類できない	区分外	分類できない	区分外
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	分類できない	区分外	分類できない	区分外
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない	区分外	分類できない	区分2B
呼吸器感作性	区分1	分類できない	分類できない	分類できない
皮膚感作性	区分1	区分外	分類できない	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない	分類できない	分類できない	区分外
発がん性	区分2	区分外	区分外	区分2
生殖毒性	分類できない	区分2	分類できない	分類できない
特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分1(肝臓)、 区分2(心臓)	区分1(呼吸器、 全身毒性)	区分3(気道刺 激性)	分類できない
特定標的臓器毒性(反復暴露)	分類できない	分類できない	区分1(肺;吸 入)	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
水生環境急性有害性	分類できない	区分1	分類できない	分類できない
水生環境慢性有害性	分類できない	区分1	分類できない	分類できない

	酸化鉄	シリカ(有害性デ ータなし)	ステアリン酸亜 鉛	ステアリン酸マ グネシウム
急性毒性 経口	分類できない	分類できない	区分外	分類できない
急性毒性 経皮	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
急性毒性 吸入(ガス)	分類対象外	分類できない	分類対象外	分類対象外
急性毒性 吸入(蒸気)	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
急性毒性 吸入(粉塵・ミスト)	分類できない	分類できない	区分外	分類できない
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分2	分類できない	区分3	区分3
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1	分類できない	区分2B	区分2B
呼吸器感作性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
皮膚感作性	分類できない	分類できない	区分外	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
発がん性	区分外	分類できない	分類できない	分類できない
生殖毒性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分3(気道刺 激性)	分類できない	区分3(気道刺 激性)	分類できない
特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分1(呼吸器 系)	分類できない	分類できない	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
水生環境急性有害性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
水生環境慢性有害性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない

	石油ナフサ	酸化銅(Ⅰ)	酸化ニッケル (Ⅱ)	ミネラルスピリ ット
急性毒性 経口	区分外	区分4	区分外	区分外
急性毒性 経皮	区分外	区分外	分類できない	分類できない
急性毒性 吸入(ガス)	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
急性毒性 吸入(蒸気)	区分4	分類できない	分類できない	分類できない
急性毒性 吸入(粉塵・ミスト)	分類できない	区分4	分類できない	分類できない
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分2	区分外	分類できない	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分外	区分2	分類できない	区分外
呼吸器感作性	分類できない	分類できない	区分1	分類できない



皮膚感作性	区分外	分類できない	区分1	区分外
生殖細胞変異原性	区分外	分類できない	区分外	区分外
発がん性	分類できない	分類できない	区分1A	分類できない
生殖毒性	分類できない	分類できない	分類できない	区分外
特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分3(気道刺激性)	区分1(全身)、 区分3(気道刺激性)	分類できない	区分3(麻酔作用、 気道刺激性)
特定標的臓器毒性(反復暴露)	分類できない	分類できない	区分1(呼吸器)	区分2(肝臓、 精巣)
吸引性呼吸器有害性	区分1	分類できない	分類できない	区分1
水生環境急性有害性	分類できない	区分1	区分外	区分1
水生環境慢性有害性	分類できない	区分1	区分4	区分1

16. その他の情報

引用文献

- 文献-1 「樹脂ペレット漏出防止マニュアル」 日本プラスチック工業連盟 平成5年5月
- 文献-2 「JIS Z 7252:2009 GHSに基づく化学物質等の分類方法」 日本工業標準調査会 審議平成21年10月20日
- 文献-3 「JIS Z 7253:2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」 日本工業標準調査会 審議平成24年3月25日
- 文献-4 「許容濃度の勧告(2014年度)」 日本産業衛生学会 平成26年5月22日
- 文献-5 「事業者向け GHS 分類ガイダンス(平成25年度改訂版)」 経済産業省 平成25年7月
- 文献-6 OSHA Annotated Table Z-1, Permissible Exposure Limits UNITED STATES DEPARTMENT OF LABOR
- 文献-7 スチレンの GHS 分類一覧表(スチレン工業会版 2008.6.24)

本「安全データシート」の記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、以上の情報は新しい知見により改訂されることがあります。

尚、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

また、本製品の使用にあたっては、用途に対応する法規制、および用途への適合性、安全性等を使用者各位の責任において試験・確認願います。

本「安全データシート」は本製品を安全にご使用していただくための情報提供であって、安全に関する保証書ではありません。